

平成30年度自転車等規格標準化事業
J I S / I S O 関係実施報告書

(一財)自転車産業振興協会
技術研究所

当会は、自転車J I S原案作成団体及び「I S O / T C 1 4 9 (自転車) / S C 1」の幹事国、国内審議団体として、これまで多くの自転車規格(J I S・I S O)の改正・制定・廃止作業を実施している。

平成30年度においては、自転車等規格標準化事業としてJ I S及びI S Oに係る諸案件を検討すべく、以下のとおり委員会及び各種作業部会等を設置・開催した。

・ J I S / I S O 規格研究委員会

J I S改正案件の審議において広く公平性を保つため、学識経験者、消費者(使用者)、製造者、中立者で構成する「J I S / I S O規格研究委員会」を設置・開催して、平成30年度J I S / I S O事業進捗状況を報告するとともに、令和元年6月に開催が予定されているI S O / T C 1 4 9東京会議の概要を報告し、承認を得た。

1. 会議等の開催

(1) J I S / I S O 規格研究委員会

日 時：平成31年3月13日

場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室

議 題：平成30年度J I S / I S O事業報告について
2019年度J I S / I S O事業検討体制について

・ J I S / I S O 調査分科会

業界有識者で構成する「J I S / I S O調査分科会」を設置・開催し、自転車J I S及びI S Oに係る網羅的な対応方針を検討するとともに、傘下の作業部会が実施した各種検討案件及びI S O各種投票への対応方針について審議した。

1. 会議等の開催

(1) 第1回J I S / I S O調査分科会

日 時：平成30年5月23日

場 所：当会技術研究所 3階会議室

議 題：平成30年度 J I S / I S O事業計画
I S Oブルーミントン国際会議対応方針等

(2) 第2回J I S / I S O調査分科会

日 時：平成30年10月31日

場 所：当会技術研究所 3階会議室

議 題：I S Oブルーミントン国際会議報告
S R投票への対応確認

(3) 第3回J I S / I S O調査分科会

日 時：平成31年3月22日

場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：ISO CD投票、DIS投票に係る国内コメント集約
CEN/TC333（自転車）の動向について

・ JIS改正検討作業部会

平成30年度のJIS改正案件であるJIS C9502（自転車用灯火装置）及びJIS D9419（自転車 - ハブ）他部品4規格の改正内容について具体的検討を行った。

1. 会議等の開催

- (1) 第1回JIS改正検討作業部会・ランプ部会
日 時：平成30年6月14日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：JIS C9502（自転車用灯火装置）改正の具体的検討
- (2) 第2回JIS改正検討作業部会・ランプ部会
日 時：平成30年7月24日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：JIS C9502（自転車用灯火装置）改正の具体的検討
- (3) 第1回JIS改正検討作業部会・部品部会
日 時：平成30年7月25日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：JIS D9419（自転車 - ハブ）改正などの具体的検討
- (4) 第3回JIS改正検討作業部会・ランプ部会
日 時：平成30年9月13日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：JIS C9502（自転車用灯火装置）改正の具体的検討
- (5) 第2回JIS改正検討作業部会・部品部会
日 時：平成30年10月12日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：部品規格の改正などの具体的検討
- (6) 第4回JIS改正検討作業部会・ランプ部会
日 時：平成30年11月21日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：JIS C9502（自転車用灯火装置）改正の具体的検討
- (7) 第3回JIS改正検討作業部会・部品部会
日 時：平成30年12月14日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：部品規格の改正などの具体的検討
- (8) 第5回JIS改正検討作業部会・ランプ部会
日 時：平成31年1月25日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：JIS C9502（自転車用灯火装置）改正の具体的検討
- (9) 第6回JIS改正検討作業部会・ランプ部会

日 時：平成31年3月28日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：JIS C9502（自転車用灯火装置）改正の具体的検討

WG13/WG14 対応国内作業部会

ISO 4210（自転車の安全要求事項）及びISO 8098（幼児用自転車の安全要求事項）の改正作業を行っている「WG13」において、日本からの提案、及び諸外国からの各種提案への対応方針等を検討するとともに、日本がCV（コンビナー）を担当してISO 8090（各国言語による自転車部品名称）の規格改正作業を行っている「WG14」において、日本語による自転車部品名称の取りまとめ及び改正原案の作成を行うべく「WG13/WG14 対応国内作業部会」を設置・開催した。なお、ISO 8090については、平成31年2月19日よりDIS投票が開始され、規格改正の最終段階まで到達することができた。

1. 会議等の開催

（1）第1回WG13/WG14 対応国内作業部会

日 時：平成30年5月23日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：ISOブルーミントン国際会議における対応方針の検討

（2）第2回WG13/WG14 対応国内作業部会

日 時：平成30年10月31日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：ISOブルーミントン国際会議報告
CEN/TC333の動向について

（3）第1回WG14用語分科会

日 時：平成30年10月31日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：ISO 8090（各国言語による自転車部品名称）に係る日本語による部品名称最終確認

（4）第3回WG13/WG14 対応国内作業部会

日 時：平成31年3月22日
場 所：目黒・自転車総合ビル701会議室
議 題：CD投票及びDIS投票に係る国内コメント集約
CEN/TC333の動向について

WG15 対応国内作業部会

日本がCV（コンビナー）及びPL（プロジェクトリーダー）を担当し、新規規格作成作業を行っている「WG15（EPACS）」において、具体的な電気系・機械系規格案を検討する場として「WG15 対応国内作業部会」を設置・開催の上、ISO中央事務局に対しISO/DIS 4210-10規格案を提出した。なお、ISO 4210-10については、平成31年2月18日よりDIS投票が開始されている。

1. 会議等の開催

- (1) 第 1 回WG 1 5 ・電気分科会
日 時：平成 3 0 年 4 月 1 2 日
場 所：新橋・田中田村町ビル 8 B 会議室
議 題：電気系規格案内容検討
- (2) 第 1 回WG 1 5 対応国内作業部会
日 時：平成 3 0 年 4 月 2 5 日
場 所：当会技術研究所 3 階会議室
議 題：I S O ブルーミントン国際会議における取り組みについて
- (3) 第 2 回WG 1 5 ・電気分科会
日 時：平成 3 0 年 5 月 1 8 日
場 所：当会技術研究所 3 階会議室
議 題：電気系規格案対応検討
- (4) WG 1 5 ・機械分野打ち合わせ
日 時：平成 3 0 年 5 月 2 3 日
場 所：当会技術研究所 3 階会議室
議 題：機械分野コメント対応検討
- (5) 第 2 回WG 1 5 対応国内作業部会
日 時：平成 3 0 年 5 月 2 5 日
場 所：名古屋・国際センター第 6 会議室
議 題：I S O ブルーミントン国際会議対応検討
- (6) 第 3 回WG 1 5 対応国内作業部会
日 時：平成 3 0 年 6 月 4 日
場 所：当会技術研究所 3 階会議室
議 題：I S O ブルーミントン国際会議対応検討
- (7) 第 3 回WG 1 5 ・電気分科会
日 時：平成 3 0 年 7 月 2 日
場 所：当会技術研究所 3 階会議室
議 題：I S O ブルーミントン国際会議後の電気系対応検討
- (8) 第 4 回WG 1 5 ・電気分科会
日 時：平成 3 0 年 8 月 3 0 日
場 所：当会技術研究所 3 階会議室
議 題：WG 1 5 国際会議（フランス・リール）対応検討
- (9) 第 4 回WG 1 5 対応国内作業部会
日 時：平成 3 0 年 9 月 1 4 日
場 所：目黒・自転車総合ビル 7 0 1 会議室
議 題：WG 1 5 国際会議（フランス・リール）対応検討
- (10) 第 5 回WG 1 5 対応国内作業部会
日 時：平成 3 0 年 1 0 月 3 0 日
場 所：目黒・自転車総合ビル 7 0 1 会議室
議 題：WG 1 5 国際会議（フランス・リール）直前戦略検討など
- (11) ISO 4210-10 規格案編集打ち合わせ

日 時：平成30年11月20日
場 所：当会技術研究所3階会議室
議 題：ISO/DIS 4210-10の作成

(12) 第6回WG15対応国内作業部会

日 時：平成30年12月21日
場 所：当会技術研究所3階会議室
議 題：ISO/DIS 4210-10をベースにしたJIS規格(電動アシスト自転車)の素案検討など

・ISO国際会議への出席

JIS/ISO調査分科会、WG13/WG14及びWG15対応国内作業部会等で取りまとめた日本のコメント及び提案内容を積極的に発信するためISO国際会議へ参画した。

(1) ISO/TC149/SC1、WG13、WG14、WG15国際会議

日 時：平成30年6月11日～15日
場 所：Hyatt Regency Bloomington(アメリカ・ミネソタ州ブルーミントン)
派 遣：国際幹事 1名
国内委員 8名
議 題：(1) WG13：ISO 4210(自転車の安全要求事項)、ISO 8098(幼児用自転車の安全要求事項) 審議、検討

(2) WG14：ISO 8090(各国言語による自転車部品名称) 審議、検討

(3) WG15：ISO 4210-10(E P A C S) 新規策定

(2) ISO/TC149/SC1/WG15国際会議

日 時：平成30年11月12日～13日
場 所：BTWIN village 会議室(フランス・リール)
派 遣：国際幹事 1名
国内委員 7名
議 題：(1) ISO 4210-10(E P A C S) 新規策定

・幹事国業務等

平成20年10月より、当協会は自転車及び主要サブアセンブリに関する国際規格を検討する「ISO/TC149/SC1」の幹事国業務を担当しており、SC1の運営の他、傘下の4つのWG(ワーキング・グループ)の規格原案(CD/DIS/FDIS)作成作業の取りまとめ、コメント処理、プロジェクト管理、国際会議開催及び国際規格の進捗に係る国際投票等の実務を実施している。

・JIS/ISO事業に係る成果

〔JIS関係〕

・平成25年度にスタートした「JIS/ISO整合化作業」については、議論の積み重ねにより、JISの規格体系の見直しを図り改正を行った。改正案件8件、新規案件8件、廃止案件2件の合計18件については、平成31年2月20日に発行された。

- ・平成30年度はブレーキ、チェーン、フリーホイール、ハブ、タイヤバルブ、自転車用灯火装置の改正作業に着手し、「部品部会」及び「ランプ部会」を設置・開催し、改正原案のとりまとめを実施している。

〔ISO関係〕

- ・「ISO 4210（自転車の安全要求事項）及びISO 8098（幼児用自転車の安全要求事項）の継続審議：WG13」及び「ISO 8090（各国言語による自転車部品名称）：WG14」に対する国内対応体制として、「WG13/WG14対応国内作業部会」を設置・開催し、具体的な対応等を検討するとともに、「ISO/TC31/SC10/WG16（自転車用タイヤとリムの名称及び寸法）及び「CEN/TC333（自転車）」の動向などの海外情報については、積極的に情報収集に努めている。
- ・日本が新規提案し、CV（コンビナ）及びPL（プロジェクトリーダー）を引き受けドラフト策定作業を進めている「ISO 8090（各国言語による自転車部品名称）：WG14」については、消費者と密接に関係している量販店、小売店からの参画を得て「WG14用語分科会」を立ち上げ、国内意見を集約するとともに、規格案の取りまとめ作業を実施した。
- ・日本が新規提案し、CV（コンビナ）及びPL（プロジェクトリーダー）を引き受けドラフト策定作業を進めている「ISO 4210-10（EPACS）：WG15」に対する国内対応体制として「WG15対応国内作業部会」及び「電気分科会」、「機械分科会」を設置・開催し、オールジャパンの体制で積極的に取り組んでいる。

・技術研究所の業務

〔JIS関係〕

技術研究所は「自転車JIS原案作成団体」の事務局機能を担っており、JIS改正案の策定にあたっては、関係メーカー等の協力を得て検証試験等を実施の上、得られたデータを分析・解析して改正作業に取り組むほか、関係機関との調整、業界有識者で構成する会議を開催して改正案の取りまとめを行うとともに、ホームページを通じて業界に広くパブリックコメントを募集するなど、自転車JIS改正に関わる一連の作業を実施している。

一方、自転車に関わる製品事故等に対しては、現行JISの妥当性について検証試験を行うなど、日本の物づくりの指針であるJISの見直し作業等について業界を主導する立場で実施している。

〔ISO関係〕

技術研究所は、「ISO/TC149/SC1」国内審議団体の事務局機能を担っており、自転車ISOの日本における窓口業務として、ISOからの各種情報は必要に応じて迅速に業界関係者等に周知するほか、ISOからの提案については、業界団体及び関係機関と協議の上、必要な国内対応体制（WG作業部会）を立ち上げて対応方針を検討するなど、自転車業界を主導する立場で事業を推進している。

また、国内向け技術サポートとして、日本からISOに対して提案する案件の検証試験等を技術研究所で実施するなど、バックデータを積み上げて提案内容の信頼性を高める体制を整えた。

． J I S / I S O 事業の効果

〔 J I S 関係 〕

自転車 J I S 原案作成団体として、技術研究所が中心となって、関係省庁及び関連団体、製造事業者等と協力して、日本の物づくりの指針である J I S の見直し作業を実施することにより、国内製品の品質向上に資するとともに、消費者の安全性確保を図ることが期待できる。

〔 I S O 関係 〕

日本からの新規提案である「 ISO 8090 (各国言語による自転車部品名称): W G 1 4 」及び「 ISO 4210-10 (E P A C s): W G 1 5 」については、日本が C V (コンビナ) 及び P L (プロジェクトリーダー) を引き受けた上で、関係省庁及び関連団体、製造事業者等が協力してドラフト策定作業を推進するなど、国際的な課題に積極的な役割を果たしている。

一方、日本国内においては、 I S O に関する動向・情報などを速やかに業界に提供することで、国内製造事業者が輸出する際に不利益を被らないような対応体制がより強固になった。

以 上